

令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23013

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果から、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている将来の夢や目標を持っている」児童が多いという実態がある。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標調査の結果から、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」児童が多いという実態がある。</p> <p>◇学校独自の児童アンケートの結果から、「授業中、学習内容を理解できている」と感じている児童が多いという実態がある。</p>	<p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果から、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」児童が少ないという実態がある。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標調査の結果から、「自分の意見を進んで発言しようとしている」「意見を発現する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の順序を考えている」児童が少ないという実態がある。</p> <p>◇学校独自の児童アンケートの結果から、「楽しく読書をしたり、本を借りたりしている」児童が少ないという実態がある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市全体の共通指標調査の結果から、「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童が多いことから、『他者への承認』『他者からの承認』の感度は高いと言える。学年やブロック、異学年交流でのつながりによる育ちと考えられる。しかし、「自分が必要とされていると感じる」児童が少ないことから『自己承認』については改善の余地は小さくないため、児童を認め価値付ける場や自分を見直す場の設定が必要と考える。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自らのよさ、他者のよさを知り、共に学び、行動する力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇子どもの声でつながる授業の工夫</p> <p>→ 一人一人が主体的に、意欲をもって学ぶ手立て 単元構成や問題把握を工夫することで、子どもに解決への明確な見通しをもたせる。既習を生かすよう関わる。また、相手意識をもてる課題・目標を設定していく。</p> <p>→ 子どもたち同士の考えをつなげる教師の関わり 教師が意図をもって問いを更に焦点化して深める、教科書の叙述に戻す、個の考えを学級全体に広げる。また、ねらいをもって発問・板書・効果的な資料の提示・交流の設定などを行っていく。</p> 	<p>◇自己承認の感度を高める活動の充実</p> <p>→ 自己の成長を実感できる教師の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習単元や行事の始めと終わりですぐ成長できたか、分かるようになったかを振り返る。ノートやプリント指導で具体的に褒め、小さな自信を積み重ねていく。 ・「よくできたね」「頑張りが伝わってくるよ」など承認や励ましを即時に行う。多様な考えを取り上げ、互いの考えのよさに気付かせるよう関わる。 ・自己決定の場を設定し、その取組を認め、価値付けていく。

〈本プログラムの実行に向けて〉

